## 鳥取県立米子東高等学校全日制課程

 1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。
 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。
 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。 中長期目標

1 主体的な学びの推進 2 豊かな人間性の育成 3 生徒・保護者・地域に信頼される学校 4 働き方改革の推進 今年度の 重点目標

		他人の息兄に対しては平直に叉り止め、自力の息兄を神理的に労能に表明できるコミューケーション 比力を行うた主体を自成する。					
評価項目	評価の具体項目		初   目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	中間評価結果 経過·達成状況	( 9 )月 <b> </b> 評価	改善方策
#I IM. X II	E. E. Z. A. T. A. L.	・授業アンケートは、Chromebookを活用して全教科・科目で実施し、授業改善に生かし	<ul><li>・授業アンケートで、「この授業はICTを活用したも</li></ul>	・授業アンケートを活用し、授業改善を行	・Google Classroomを活用し、課題および担任会資料等のペーパーレス化、授業等の	ш	・授業アンケートを2学期終盤に実施し、結果を活用し
		た。 ・授業アンケートで、「この授業はICTを活用したものになっていた」の問に「そう	のになっていた」の問に、「そう思う」と回答が60%以	う。 ・各教科ともルーブリックに基づき、パ	改善に努めている。 ・各教科、開講科目ごとにルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を行ってい		て、授業改善を行う。 ・各教科ともルーブリックに基づき、パフォーマンス評
	ICTを活用したア	思う」と回答したのは48.9%だった。	<ul><li>・授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいく</li></ul>	フォーマンス評価を実行する。	<b>వ</b> .		価を実行する。
	クティブ・ラーニン グ等による授業改善	・授業アンケートで、「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の問に「そう 思う」と回答したのは55.5%だった。	ものだった」の問に「そう思う」との回答が60%以上	・ICT活用に関する教職員研修会を実施す	・SHR連絡、アンケート、課題・資料の配信、小テスト、授業内での活動のツールなど様々な形でGoogle Chromebookを活用している。	Α	・引き続き、Chromebookを活用し課題等の配信を行う。
	ク 等による技業以普 と適切な評価	・開講科目ごとにルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を行い、考査や平常点な		・Chromebookを活用し、課題等の配信を行	・ICT活用に関する教職員研修会を11月25日実施予定。		
		ども考慮した総合的な評価を実施した。 ・Chromebookを活用した授業実践について、教科の枠を超えた授業参観により、授業展		٥٠ ا			
		開の工夫を行った。					
		コンテストの総参加者数は102件・1100人。上位大会へ出場者は18件・43人であった。 ・「科学の甲子園」3年連続全国大会出場、化学グランプリ大賞受賞、日本生物学オリ	・各種科学コンテスト・土曜活用事業への参加など内外 コンクールやコンペへの参加者数について、	<ul><li>「打って出る」の研究と進路目標を結びつける取組を継続する。</li></ul>	・各種科学コンテスト・土曜活用事業等の内外コンクールやコンペへの参加者は、21 件226名である。 (9月26日現在)		・外部発表会参加生徒をGoogleフォームを用いて効率的 に募集し、多くの生徒が参加できるようにする。
		ンピック銅賞受賞など全国トップレベルの活躍が見られた。	総参加者で120件・1200人以上	・外部有識者による中間発表指導やフィール	・GSC島根に参加した生徒が、インドで行われた海外研究交流会参加者に選考さ		・各発表会の成果等を、ホームページ等を通して積極的
	SSH事業に取り組	・学校設定科目「課題探究基礎」では、週1回の担当者会を実施し、系統的なカリキュラムの検証を行うことにより内容の改善につなげた。	予選を通過して上位大会へ出場する者 20件・50人以上 ・学校満足度アンケート「独自のものを創り出そうとす	ドワーク講習により、研究の質を向上させ	れ、研究発表を行った。 ・「課題探究基礎」では、週1回課題探究基礎担当者会を行い、授業内容の精選に取		に外部に発信する。 ・高度な専門性を有する探究については大学教員の指導
	むことで、科学探究 力・情報発信力、実	・学校設定科目「課題探究応用」では、観点別評価に合わせた新しい評価法を作成し、	る姿勢 (独創性) は増したと思いますか」の問に肯定的		り組んだ。		を仰ぎ、また共同研究とすることで、探究レベルの向上
1 主体的な学びの推進	践力を身につけ、よ	グループだけでなく個人の取組内容の伸長を評価する仕組を検討した。また、中間発表 では大学教員に専門的な見地からのアドバイスを受け、探究力の向上が見られた。	回答が70%以上	応用」「課題探究発展」の内容を改善し、主体的探究活動のさらなる推進を図る。	・「課題探究応用」では、「打って出る」目標と研究を結びつける取組や定期的な担当者による面談により、先行研究を踏まえた仮説を立てることができている。	Α	を図る。
	りよい社会の実現を 目指すチャレン	・学校設定科目「課題探究発展」では、イノベーション成果発表会に多数の研究者や他		<ul><li>一流講師の講演会を実施し、高い志を育成</li></ul>	・「課題探究発展」では、全員が「継続課題探究」を選択し、イノベーション成果発		
	ジャーを育成	校教員の前で、73人の継続課題探究選択者が口頭発表を行った。   ・学校満足度アンケートで、「独自のものを創り出そうとする姿勢(独創性)は増した		する。	表会で外部の有識者を含む多くの聴衆の前でポスター発表または英語口頭発表を行った。		
		と思いますか」の問に肯定的回答が68.8%だった。					
		<ul><li>・国公立大学合格者235名(現役合格189名)、難関大学合格者数61名。</li><li>・国公立大学の総合型選抜入試では50名が出願し20名合格、学校推薦型選抜入試では22</li></ul>	・国公立大学合格者220名以上 (現役合格者180名以上)	<ul><li>総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試を適切に活用する。</li></ul>	・3年は進路講演会を開催し、最新の進路情報の提供と進路意識の向上を図った。 (1,2年は10月9日実施予定)		・東京大学訪問について、面接を実施するなど選抜方法 を工夫する。
		名が出願し11名が合格した。	・難関大学合格者70名以上	・個別学力試験対策の強化(授業・講習)を	・担任進路検討会で情報の共有を諮った。		・積極的な講習の受講を促すために引き続き担任の声掛
	高い目標に向かって	<ul> <li>3年次放課講習及び夏季講習 27講座開設し、延べ846名が受講した(R4年度:32講座、延べ1,471名)</li> </ul>		・東京大学訪問を実施する。	・小論文、論述問題対策として、小論文指導研修会を実施した。 ・3年次の前期放課後講習受講者は延べ290名であった。 (昨年270名)	l .	けを促していく。 ・3年では、新課程における総合型選抜入試や学校推薦
	努力する生徒を育成 する進路指導の充実	・夏期講習 1年次188名(R4年度229名) 2年次66名(R4年度79名) ・冬期講習 1年次 79名(R4年度115名) 2年次39名(R4年度74名)		・高い志を持つよう講演会を実施する。	・3年次の夏期講習受講者延べ人数は483名であった。(昨年419名)         ・夏季講習 1年次259名(昨年188名)       2年次98名(昨年66名)	A	型選抜入試の研究を行い、適切な情報活用に向けて、個 人面接を実施し個々の能力や資質に応じた指導をする。
		・東京大学訪問に13名が参加した(R4年度26名)。			・東京大学訪問では46名希望して、2年次生27名が参加した。		大国政 と大地 ひ回へ シ記分 ( 異異に応じた) 日子と ア あ。
					・1学期保護者懇談時には基礎学力向上を目的とした基礎セミナーを英・数・国の3 教科で実施した。		
		<ul><li>┃・教員の指示がなくても自主的に掃除をする生徒が多い。生徒が自ら進んで検拶する雰</li></ul>		・掃除と挨拶の徹底する。	・主体的に掃除ができる生徒が多く、校内美化に貢献している。	<del>                                     </del>	・遅刻確認票などによる遅刻指導を徹底し、遅刻をしな
	主体性・自律性の育成	<ul><li>■気がある。</li><li>・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の問の肯定的な回</li></ul>	・主権者意識の高揚 ・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組	・主権者教育や環境教育など、各種領域教育 を実施し、社会参画への態度を育成する。	・総遅刻者数は延べ82人(8月末現在)で対前年度比17%増 1年:31名(昨年23名) 2年:27名(29名)3年:24名(18名)		いように呼びかける。 ・生徒部での立ち番や、部活動・生徒会執行部の生徒中
		答は94.2%。	んでいるか」の問に肯定的回答が95%以上	・遅刻確認票による遅刻指導の徹底をする。	・学校祭(体育祭)の企画・運営を生徒が主体的に取り組むことができた。		心に「あいさつ・マナー運動」を行い、交通安全やヘル
2 豊かな人間性の育成		・生徒会を中心にルールメイキングプロジェクトやSDGsワークショップ等を行い、生徒 が主体的に活動した。	・生徒会活動やTEASの推進 ・遅刻者を延べ人数で全校生徒の25%未満(210人未満)	・自転車用ヘルメットの着用を徹底する。	・自転車用ヘルメットは、ほとんどの生徒が着用しているが、登下校の途中にはずしている生徒もみられる。	В	メット着用の呼びかけを行う。 ・普段からの生徒指導を徹底し、問題行動を未然に防止
		・総遅刻者数が、前年度比14%減(R4年度:291人⇒R5:251人)であった。	・SDG s の推進		·問題行動件数2件(9月末日現在)。	Ь	するなど迅速で適切な対応をしていく。
		・自転車用ヘルメットは、学校周辺ではほとんどの生徒が着用しているものの、登下校 中に着用しない生徒もみられる。	・学校満足度アンケート「あなたは主体的に学校生活を 送っていると思うか」の問に肯定的回答が、70%以上				・生徒会を中心に校則の見直しを行い、生徒が主体的に 活動できるように取り組む。
		・問題行動件数3件。	・問題行動件数0件				
		・全国高校総体で女子高飛込優勝、女子3m飛板飛込準優勝、飛込競技女子学校対抗で	<ul><li>・学業と部活動の両立</li></ul>	・中国大会・全国大会へ出場する部活動を増	・国民スポーツ大会セーリング競技大会において、少年女子ILCA 6 で優勝した。		・引き続き、中国大会・全国大会へ出場する部活動を増
		優勝した。 ・全国高校囲碁選手権大会で男子団体が3位に入賞した。	・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック大会以上	やすために指導方法の改善と工夫を推奨す	・今年度は中国大会等での上位入賞はなかった。部または個人が出場権を獲得した大会の数は、中国地区大会では延べ26 (昨年度) から、23と減少し、全国大会では延べ		やすために指導方法の改善と工夫を推奨する。 ・「部活躍報告」を引き続き実施する。
	部活動の推進	・中国大会・近畿大会出場の部活動・個人は昨年度の50から59へ、全国大会出場の部活	・中国大会・近畿大会出場の部活動・個人の総数50以上		18 (昨年度) から14と減少した。 (10月1日現在)	В	・即は唯代日」で列で死亡天地する。
		動・個人は24から30へと増加した。 	・全国大会出場の部活動・個人の総数が25以上	する機会を設ける。	・「部活躍報告」で県大会等で上位に入賞した部活動を表彰し、本校のHPに掲載し た。		
		・台湾桃園市立陽明高級中学との国際交流事業を実施した。(受入れ生徒32名・訪問生	・人権教育の推進	<ul><li>・台湾桃園市立陽明高級中学・新竹女子高級</li></ul>	・1年次生は、部活加入率は93.6%と多くの生徒が部活動に入部し活動している。 ・小川・早原奨学基金による海外留学支援事業(サンディエゴ)10名をはじめ、各種		・12月に、台湾桃園市立陽明高級中学・新竹女子高級中
		徒15名)	・海外研修等に全校の1割以上の生徒(84名) が参加	中学との交流を推進する。	研修に生徒が積極的に申し込んでいる。 ・3年次生は、性的マイノリティーや等の事象をもとにLHRを実施し、差別解消に向け		学との交流を実施する。
		・グローバルリーダーズキャンパスの受講希望者14名 (R4年度15名) のうち、6名 (R4 年度10名) が県の審査を通過し、3名 (R4年度3名) が聴講生として参加した。	・読書活動の充実を図り、貸出冊数を9,000 ・ボランティア活動への積極的な参加	<ul><li>海外研究機関との交流</li><li>海外研修へ積極的に派遣</li></ul>	た取組や当事者意識について学んだ。		・ケアンズ研修・サンディエゴ研修などで海外研究機関 との交流を推進し、海外研修へ積極的に派遣する。
		・小川・早原奨学基金によるロサンゼルス研修を3月に実施し、10名が参加。 ・米子東高等学校オーストラリア研修を3月に実施し、22名が参加。	・何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成として、学校満足度アンケート「 将来の目標を決めた上で学	・新刊紹介を積極的に行う ・SSHオーストラリア研修 SSH沖縄研	・5月、台湾桃園市立陽明高級中学の生徒と本校生徒9名とのオンライン交流を実施した。		・引き続き、図書の新刊紹介を積極的に行う ・SSH沖縄研修を1月に、SSHアデレード研修を3月
	体験的な学びの推進	・図書館の貸出冊数は8,361冊だった。	習していますか」の問に肯定的回答が75%以上	修、アメリカ合衆国研修、バーモント州研修	・グローバルリーダーズキャンパスに、7名(昨年6名)が受講生として参加。	Α	に実施予定。
		・人権教育公開LHRでは、1年次生は、グループで選択した人権課題について体験型 ワールドカフェ方式で発表・質疑を行い、2年次生は、部落差別の現状を忌避意識を中		の実施 ・東京大学等訪問研修の実施	・8月、令和5年度グローバルリーダーズキャンパス最優秀受講生に1名が選ばれ、 スタンフォード大学での表彰式に参加。		・11月に、体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開L HRを実施予定。
		心に学習し、人権意識の深化を図った。 ・3年次生は、鳥取県人権施策基本方針に挙げられている人権課題についてグループで		・体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開 LHRの実施	・10月、鳥取県・バーモント州青少年交流事業に1名が参加予定。 ・9月23日現在の図書貸出冊数は、4,557冊。		
		考察を深め、差別解消の担い手としての自覚を深めた。		と日本の大胆	7月20日先江が四晋員山川双は、1,507回。		
		・7月には、PTA進路講演会を行い保護者318人(内170人オンライン視聴)が参加し	・保護者と教職員の連携によるPTA活動の活性化	・DTA公員と担当新昌が由心とたり 久禾	・PTA総会(5月)、各学年合同保護者会(5・6月)、各種委員会を実施し、学		・引き続き、PTA役員と担当教員が中心となり、各委
3 生徒・保護 者・地域に信頼 される学校		た。	・各PTA活動に参加する保護者が前年度数より増加す	員会活動が充実した内容となるように努め	校の目標や現状、PTA活動等について保護者と共有した。		員会活動が充実した内容となるように努める。
		・9月には、「高校生あいさつ・交通マナー運動」を学校周辺の通学路で行い保護者5 人が参加した。	るよう取り組む	る。 ・マチコミメールで、保護者にPTA活動等	・PTA進路講演会を7月に実施し、保護者280人(内138人オンライン視聴)が参加した。		・引き続き、マチコミメールで、保護者にPTA活動等 の案内・連絡・出欠の確認を行い、周知する。
		・9月には、障がい者問題をテーマにPTA人権教育推進委員研修会を行い保護者14人が参加した。1月には、マジョリティ特権をテーマにPTA人権教育研修会を行い保護		の案内・連絡・出欠の確認を行い、周知す	・米東だより113号、号外の教職員紹介号を発行した。 ・今年度より保護者宛の案内文書をマチコミメールで配信している。また、PTA活		・引き続き、地域連携協働活動に取り組み、休日等に図 書館、自習室を開館する。
	PTA活動の充実	者11人が参加した。また、機関紙『ロゴスのこころ』を発行した。		رم. ا	動の連絡や出欠確認もメールで行っている。	Α	育時、日日至で開路する。
		・11月には、PTA大学訪問を行い保護者34名が神戸大学、関西学院大学を見学し、説明を聴いた。また、コーチングをテーマとしたPTA主催講演会を行い保護者47名が、			・地域連携協働活動に取り組み、休日等に図書館、自習室を開館している。		
		学校・家庭における「育ちの支援」について学習を深めた。 ・2月には、生徒・保護者・教職員の意見交換会を行い保護者4人が参加して生徒会活					
		動や校則の見直しについて意見交換をした。					
		・米東だより(110号・111号)や号外の教職員紹介号を予定通り発行した。 ・地域連携協働活動に取り組み、休日等に図書館、自習室を開館した。					
	地域への発信	・学校行事の際は積極的に取材に赴き、ホームページに掲載した。ホームページ更新回数は133回(R4年度104回)。	・積極的な学校情報の発信による地域・保護者への学校 理解の促進	・ホームページにより積極的に学校情報を発信する。 (130回以上更新)	・学校行事を積極的に取材し、ホームページに掲載した。ホームページ更新回数は60 回(昨年56回)(8月末現在)。		・引き続き、ホームページにより積極的に学校情報を発 信し、ホームページを迅速に更新する。
		・部活動の活躍など生徒の活動の様子を写真やコメント付きでホームページ上で発信し	・学校満足度アンケート(保護者)「学校のHPは必要な	<ul><li>ホームページを迅速に更新する。</li></ul>	・部活動の活躍など生徒の活動を写真やコメント付きでホームページで発信した。		・学校運営協議会を定期的に開催し、熟議をして地域等
		た。 ・学校満足度アンケート(保護者)「学校のHPは必要な情報をタイムリーに発信してい	情報をタイムリーに発信しているか」の問の肯定的な回答が85%以上	・学校運営協議会を定期的に開催し、熟議を して地域等との連携を深めた学校運営を行		В	との連携を深めた学校運営を行う。 ・報道提供を積極的に行う。
		るか」の問の肯定的な回答は74.5%。 ・学校運営協議会を3回実施(2回目は書面により実施、R4年度までは2回実施)し、	・地域との連携強化や学校運営協議会との適切な連携・ 協働による地域とともにある学校づくり	う。 ・報道提供を積極的に行う。			
	時間が発致時間の割	地域と連携した学校運営に努めた。			. 9夕の切任で要数を公扣  田温むカニッ準帯がポモットニルがルデュッ		. 引き建き 「自節目 4.4.7.古古悠兴林如江祗 17.6.7.4.
4 働き方改革の 推進	可間外兼務時間の削 減	<ul><li>・ペーパーレスで職員会議を実施した。</li><li>・採点ソフト百間繚乱の利用を促進し、多くの教員が利用した。</li></ul>	・「県立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針」 に定める上限時間の遵守	針」を遵守するとともに、声掛け等により	・2名の担任で業務を分担し、円滑なクラス運営ができるように努めている。 ・時間外勤務の月45時間超の者は、延べ12名(昨年12名)だった。(8月末現在)		・引き続き、「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守するとともに、声掛け等により個々の業務の
		・個々の教職員が、定時退勤日を設定するなど意識を高める工夫を行った。 ・時間外業務時間が月45時間を超える職員が延べ24名、年間360時間を超える教職員が8	・時間外勤務の月45時間超の者を0名へ、年間360時間超 の者を0名にする。	個々の業務の効率化を促す。 ・業務を分担するために、担任2名制とす		В	効率化を促す。
		名おり、声掛けを継続した。		5.			
	会議の精選	・Chromebookを用いてペーパーレスで担任会を行うなど、会議の効率化に努めた。	・協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数と時				・今年度も11月にノー会議月間を設定する。
		・会議の時間を取らず、朝礼などでの連絡・報告・確認を行うことで業務の効率化を 図った。	間を削減	化を進める。 ・今年度も11月にノー会議月間を設定する。	している。 ・新課程に応じて、調査書の活動記録入力の手順等見直しを図り、業務の軽減に努め	T-	・来年度に向けて、3年次生の進路関係の業務について2 年学年団・進路指導部・教育企画部で連携して改善を進
		・11月をノー会議月間とした。			t.	В	めている。
	<u> </u>						

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] (30%以下]